

相馬野馬追の無事を祈る 総大将初陣安全祈願祭と 総大将初陣祝いの宴



一千有余年の歴史を誇る相馬野馬追の開幕を翌日に控えた7月22日、中村城跡内の相馬中村神社で総大将初陣安全祈願祭と総大将初陣祝いの宴が行われました。相馬野馬追の通常開催は3年ぶり。

今年は、相馬家33代当主・相馬和胤氏の孫の言胤君が、数え年で15歳を迎えたことから元服式に臨み、初陣を飾りました。

総大将初陣安全祈願祭には、総大将と宇多郷勢の武者らが陣羽織姿で集合。神

事を執り行い、安全と武運を祈願しました。

総大将初陣祝いの宴で、総大将は「当地は今、度重なる災害に見舞われ、さらには疫病による災害も続いている。このような状況において強い希望となるよう、明日からの野馬追祭では、一千有余年培ってきた団結の精神を皆に示してほしい。全員が威風堂々出馬されるよう希望する」と訓示しました。

続いて、相馬外天会が「相馬中村藩古式炮術」を披露し、宴に華を添えました。



自慢の歌声を披 露野馬追の郷歌 うま大会



野馬追の郷歌うま大会は7月23日、市民会館で開かれ、市内外から63人が出場しました。

同大会は、地域づくりやにぎわいの創出、交流人口の拡大を目的に開催され、今年で4回目。

草野清貴市観光協会会長のあいさつの後、前半と後半に分かれて発表が行われ、出場者が自身の選んだ曲で自慢の歌声を披露したほか、特別出演として福島はじめさんが出演し、会場を大いに盛り上げました。

自慢の喉を競う相馬盆唄大会

相馬盆唄大会は7月30日、市民会館で開かれ、市内外から子どもの部10人、一般の部11人が出場しました。

同大会は、相馬盆唄の普及と振興を目的に、3年ぶり4回目の開催。

出場者は自慢の喉を披露し、審査員によって相馬盆唄の節回しや音程が審査されました。

●結果は次のとおり(敬称略)

▽子どもの部Ⅱ1位…太田賢吾(相馬市)、2位…馬場琉羽奈(南相馬市)、3位…吉田美都(檜葉町)

▽一般の部Ⅱ1位…猪股美智



子(福島市)、2位…石井雅子(いわき市)、3位…村上さくら(相馬市)

相馬港発着クルーズ船の受け入れ にっぽん丸歓迎セレモニー



にっぽん丸歓迎セレモニーは7月22日、相馬港3号ふ頭で行われ、関係者ら約80人が参加しました。

同セレモニーは、乗客に本市をPRすることを目的に、相馬港クルーズ振興協議会の主催。

会場では、相馬高校相馬太鼓部による和太鼓演奏が行われ、乗客らに勇壮な音色を届けました。

寄付ありがとうございます

▽アルプスアルパイン株式会社

アルプスアルパイン株式会社



社による寄付は7月7日、市役所で行われ、同社の三浦久雄工場長（第1・第2角田製造部長）と松浦正樹総務課長が立谷市長に寄付金を手渡しました。

同社は、長年にわたり相馬野馬追に参加していたことから、寄付による相馬野馬追の支援を続けています。

寄付金を受け取った立谷市長は「相馬野馬追の振興のために活用させていただきます」と述べました。

▽ニューパワー相馬合同会社



ニューパワー相馬合同会社

による寄付は7月29日、市役所で行われ、同社を代表し、荻本亨株式会社フジタ東日本開発事業部副事業部長が立谷市長に寄付金を手渡しました。

同社は、株式会社フジタ、株式会社IH1、株式会社小野中村からなる連合体で、市が公募により光陽地区での太陽光発電モデル事業に選定した合同会社です。

寄付金を受け取った立谷市長は「子どもたちのために活用させていただきます」と述べました。

教育復興子育て基金に 寄付ありがとうございます



教育復興子育て基金への寄付は7月7日、市役所で行われ、フジモールド工業株式会社岡田利一相談役が立谷市長に寄付金を手渡しました。

同社が市に移転して10年目の節目を迎えたことと岡田相談役の退任に当たり、市への感謝を込めて個人として寄付を行ったもの。

寄付金を受け取った立谷市長は「相馬を拠点に活動いただき、ありがとうございます。子どもたちのために活用させていただきます」と述べました。

▽オリエンタルモーター株式会社

オリエンタルモーター株式会社

会社による寄付は7月11日、市役所で行われ、同社の木村明宏相馬カンパニー執行役員社長が立谷市長に寄付金を手渡しました。

同社は、地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）として、「音楽による生きる力をはぐくむ事業」を支援。

寄付金を受け取った立谷市長は「子どもたちのために活用させていただきます」と述べました。



▽蔵王リース株式会社

蔵王リース株式会社

寄付は8月1日、市役所で行われ、同社の平間征太郎会長と平間宏樹代表取締役が立谷市長に寄付金を手渡しました。

同社は、地域貢献の一環として、東日本大震災以前より継続的に本市を支援。

寄付金を受け取った立谷市長は「被災高齢者の生活支援のために活用させていただきます」と述べました。



素足で歩ける砂浜を次世代へ Hondaビーチクリーン活動



Hondaビーチクリーン活動は7月8日、原釜尾浜海水浴場で行われ、関係者ら約40人が参加しました。

同イベントは、素足で歩ける砂浜の実現を目的に、福島県ホンダ会の主催。

参加者は、手作業のグループとビーチクリーナー（ゴミを回収する機器）を接続したけん引車両（ATV）を使用したグループに分かれて、効率よく砂浜を清掃しました。

海開きに備えてクリーンアップ作戦

環境美化作業の「クリーンアップ作戦」は7月11日、原釜尾浜海水浴場で行われました。

市職員をはじめ、相馬マリンサポーター、石油資源開発株式会社相馬LNG基地や相双五城信用組合の有志ら約200人が参加。

参加者は、市の担当者からごみの分別方法の説明を受けた後、約1時間の清掃活動を行い、海藻や流木、空き缶、ペットボトルなど、軽トラック8台分のごみを拾い集めました。



した。

◎原釜尾浜海水浴場の開設は7月16日～8月21日。

シーズン中の無事故を目指す海水浴場安全祈願祭



市原釜尾浜海水浴場安全祈願祭は7月16日、同海水浴場で行われ、関係者ら約30人が参加し、海開き期間の安全を祈願しました。

神事が行われ、立谷市長や草野清貴市観光協会会長などが玉串を奉納。

立谷市長は「市民の皆さんや県内外からの観光客の皆さんに、安全に海水浴を楽しんでいただきたい」とあいさつしました。

同海水浴場は、新型コロナウイルス感染症の感染対策を実施しながら、8月21日まで開設されました。

相馬の海を盛り上げよう そうま浜まつり

そうま浜まつりは7月16日、原釜尾浜海水浴場で開催され、市内内外の観光客らが訪れました。

同イベントは、そうま浜まつり実行委員会の主催。

会場では、杏林大学の学生らの協力のもと、相馬の砂浜の砂を使用したサンドアートが行われ、参加した子どもたちは、キャラクターの下絵に色とりどりの砂を使用し、作品を制作していました。



姉妹都市の子どもたちと交流

市子ども親善使節団交流イベントは7月30日、原釜尾浜

子ども親善使節団

海水浴場で行われ、姉妹都市の小学生ら約40人が参加しました。

昭和58年に姉妹都市となった北海道大樹町、豊頃町との交流を目的に、市と市教育委員会の主催。

イベントは小学校5・6年生を対象に行われ、両町の児童19人と本市の児童12人がビーチバレーボール体験やスイカ割り体験、浜焼き体験などで交流しました。



ヒラメの稚魚を放流

県水産資源研究所

県水産資源研究所は7月28日、相馬沖合でヒラメの稚魚



の放流を行いました。

稚魚は、同研究所が約8、10センチメートルまで飼育したもので、放流は今回で4回目。

当日は、稚魚を積み込んだ3隻の船が原釜漁港から出港し、相馬沖合に約8万匹を放流しました。

同研究所は県内の複数の港での放流を計画しており、本市では7月28日、29日、8月1日の3日間、合計約20万匹の稚魚が放流されました。

シラス今季初水揚げ 相馬双葉漁協

相馬双葉漁業協同組合によるシラスの今季初水揚げは8月1日、原釜漁港で行われました。

当日は20隻の漁船が出港し、原釜漁港で水揚げされたシラスは約4、708キログラム

シラスは、色目やサイズにより値が付けた後、市内の水産加工業者により競り落とされ、加工と放射性物質検査を経て、県内外に流通されます。

シラス漁は、魚の大きな



どを見ながら、11月ころまで行われる予定です。

親子で干潟の生き物を観察 松川浦自然教室



松川浦自然教室現地観察会は7月30日、松川浦で開催され、親子10組30人が参加しました。

本教室は、子どもたちに松川浦の自然や文化に触れてもらいながら、自然環境保全の大切さを知ってもらうことなどを目的に、NPO法人松川浦ふれあいサポートの主催。

参加した子どもたちは、講師の鈴木孝男みちのくべントス研究所所長らの説明を受けながら、楽しそうに干潟を掘り返し、カニやエビなどを手に取って観察しました。

ビーチバレーボールで熱戦

2022ビーチフェスタ

2022ビーチフェスタin相馬は7月31日、原釜尾浜海水浴場で開催されました。

オープニングセレモニーで、立谷市長が「この広々としたコートで日ごろの成果を十分に発揮し、相馬で良い思い出をつくってください」とあいさつ。

尾浜ビーチバレーボール場を会場に、中学生の部とマスターズの部の試合が行われ、参加者は互いに声を掛け合いながら、熱戦を繰り広げました。



消費拡大で街中に活気を スーパープレミアム商品券発売

がんばろう相馬！スーパープレミアム商品券は7月31日、相馬商工会議所で販売され、大勢の市民が商品券を買い求めました。

同商品券は、相馬商工会議所が地域の活性化と消費の拡大を目的に販売したもので、1セット1万円で1万1千5百円分の買い物ができます。※同商品券は8月3日に完売しました。



スポーツ大会出場報告

▽バレーボール



スポーツ大会出場報告は7月19日、市役所で行われ、全国大会に出場する相馬高校バレーボール部の3年生部員6人が立谷市長に報告しました。

同部は、5月に開催された県大会で優勝し、8月3日から香川県で開催される全国高等学校総合体育大会男子バレーボール競技大会に出場。

報告を受けた立谷市長は選手らを激励し、奨励金を手渡しました。

▽競歩

スポーツ大会出場報告は7月25日、市役所で行われ、全国大会に出場する荒あかり選手（相馬高校3年）が立谷市長に報告しました。

荒選手は、6月に開催された東北大会の競歩5、00メートルで4位の成績をおさめ、8月3日から徳島県で開催される全国高等学校総合体育大会陸上競技大会に出場。

報告を受けた立谷市長は荒選手を激励し、奨励金を手渡しました。



▽ビーチバレーボール



スポーツ大会出場報告は8月8日、市役所で行われ、全国大会に出場する狩野心温選手（相馬総合高校3年）と青葉風佳選手（同）が立谷市長に報告しました。

両選手は、7月に開催された県予選会で優勝し、8月11日から愛媛県で開催されるマドンナカップ in 伊予市ビーチバレージャパン女子ジュニア選手権大会に出場。

報告を受けた立谷市長は両選手を激励し、奨励金を手渡しました。

社会を明るくする運動

少年野球大会

社会を明るくする運動「少年野球大会」は7月18日、相馬光陽ソフトボール場で開かれ、7チーム140人が参加しました。

社会を明るくする運動相馬市推進委員会の主催。

青空のもと、選手らは元気にプレーし、保護者らは拍手などで応援しました。

●大会の結果は次のとおり

▽1位 相馬学童野球クラブ
▽2位 飯豊ゴールデンジャーズ

▽3位 八幡ファーストスワローズ



トウモロコシをむいてみよう

川原町児童センターおやこ教室

川原町児童センターおやこ教室は7月13日、同センターで開催され、親子4組9人が参加しました。

同センターのありんこクラブ会員を対象に、食育や保護者同士の交流を図ることを目的に、トウモロコシの皮むき体験を実施。

参加した親子らは、トウモロコシの皮を一枚一枚むいて、ひげや実の付き方をじっくり観察しました。



自分の言葉で力強く

「少年の主張」相馬大会

「少年の主張」相馬大会は7月15日、市民会館で開かれ、



市内4中学校の各学年の代表生徒12人が自らの意見を発表しました。

中学生が日常生活で感じていることなどを自分自身の言葉でまとめて発表することで、中学生への理解や関心を深めてもらうことを目的に、今年で44回目。

参加した生徒は、部活動などの学校生活で学んだことやSNS利用などの社会的な問題をテーマに、力強く意見を述べました。

女性が輝く社会づくりを考える

市女性団体連絡会講演会

市女性団体連絡会講演会「女性が輝く社会づくりワークショップセミナー」は8月7日、市民会館で開催され、約80人の市民らに参加しました。

株式会社福島インフォメーションリサーチ&マネジメント代表取締役社長の橘あすかさんを講師に迎え、女性が働くために大切なワークライフバランスなどについて講演。参加者たちは、メモを取り



ながら、橘さんの話を熱心に聞いていました。

プロの調理方法を学ぶ中央公民館「相馬のお魚料理教室」



中央公民館「相馬のお魚料理教室」は7月7日、同公民館で開催され、市民ら6人が参加しました。

同教室は、相馬でとれる魚介類の調理方法を学ぶことを目的に開催。

参加した人たちは、松川浦旅館の若手経営者たちで立ち上げられた団体「松川浦ガイドの会」の菅野芳正さんと菅野雄三さんから、ホッキ貝のさばき方や下処理方法などを学び、新鮮なホッキ貝を味わいました。

ヒマワリとサルビアで遊休農地対策

市農業委員会

市農業委員会は7月21日、坪田地区の遊休農地にヒマワリの種まきとサルビアの植え込みを行い、遊休農地対策のPR活動を行いました。

同対策は平成18年から行っており、近年はヒマワリの種まきを実施。

参加した農業委員と農地利用最適化推進委員23人は、県道相馬浪江線沿いの約15アールの遊休農地で種まきなどの作業を行いました。



トラフグによる観光振興を目指す

「福とら」活用推進協議会設立総会

「福とら」活用推進協議会設立総会は7月14日、市民会



館で開かれ、相馬商工会議所をはじめ関係者約30人が参加しました。

同会は、近年相双沖で天然トラフグの漁獲量が増えていることから、はえ縄漁で獲れた天然トラフグをブランド魚として広く県内外にPRすることを目的に設立。

発起人である草野清貴市観光協会会長のあいさつの後、事業計画などが協議され、関係団体間の団結が図られました。

沿岸漁業の再生に力強い支援を

県漁業調査指導船就航式

県漁業調査指導船「拓水」

就航式は8月6日、原金荷捌き施設で開催され、漁業関係者ら約50人が出席しました。

同船は、県内沿岸漁業の早期再生・復興を図り、魚介類の放射性物質の影響などを調査するため、従来の「拓水」の代船として建造。

式で、内堀雅雄県知事らがテープカットを行った後、関係者による内覧が行われ、エアホーン吹鳴で拓水は就航

しました。



相馬の海の魅力に触れる

おさかな祭りin相馬

おさかな祭りin相馬は8月7日、相馬復興市民市場「浜



の駅松川浦」で開催され、市内外から多くの家族連れなどが訪れました。

イベントは、東日本大震災から11年が経過した福島県の海の魅力を実感してもらうことを目的に、復興庁の主催。

屋外に設置された特設ステージでは、新妻秀規復興副大臣のあいさつの後、お笑い芸人の小島よしおさんと漁業関係者らによるトークショーやヒラメさばき対決などが行われ、会場を盛り上げました。

火の用心を呼び掛ける市女性消防隊夏季防火広報

市女性消防隊の夏季防火広報出発式は8月4日、相馬消防署で行われ、各地区の女性消防隊長ら11人が参加しました。

式で、渡部順子隊長が「コロナ禍の中でも、8月は帰省などで人が集まる機会が増えることで、火災発生の恐れがあります。市民の皆さんに改めて火の用心を呼び掛けていきましょう」とあいさつ。

そろいの白のポロシャツを身に着けた隊員は、市内の商業施設で来店者に防火啓発品を配布し、火の用心を呼び掛けました。



大雨で被害を受けた自治体を支援

▽村上市に給水車を支援

8月4日、大雨の影響で大きな被害を受けた村上市（新潟県）に給水車を支援するため、市役所から職員2人が出発しました。

現地で断水が発生していることから給水車の支援を決定。

最大積載容量3,000リットルの加圧式給水車に水を詰め、断水支援のため現地へ向かいました。



▽飯豊町に支援物資を輸送

8月5日、大雨の影響で大きな被害を受けた飯豊町（山形県）に支援物資を送りました。

支援は、福島・宮城・山形広域圏災害時相互応援協定に基づく要請によるもの。支援物資の2リットルペットボトル入り飲料水（1,536本）などを積み込んだトラックが防災備蓄倉庫から現地に出発しました。

